

心臓カテ-テル検査

- 仰向けに寝た姿勢で手首や肘、足の付け根の皮膚と血管(動脈・静脈)の周囲に局所麻酔をしたあと、血管に細い管(シース)を入れてその中にさらに細いチューブ(カテ-テル)を通し心臓まで進めます。いくつかの種類のカテ-テルを使って、心臓を養っている動脈(冠動脈)が細くなったり(狭窄)詰まったり(閉塞)していないかどうかや、一時的に冠動脈が痙攣(スパズム)を起こさないかどうか、心臓の壁の動き(壁運動)、弁の働き、内部の圧力(心内圧)、1分間に全身に送り出す血の量(心拍出量)、心臓の筋肉の病気がないかどうか(心筋生検)などを調べます。虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)、弁膜症、心筋症(肥大型、拡張型、二次性)などを診断し、病態や病状を把握するために行います。とくに心筋梗塞になりかけている狭心症(不安定狭心症)や急性心筋梗塞の患者さま(急性冠症候群)に対しては、1分でも早く心臓カテ-テル検査を行える体制を医師・レントゲン技師・看護師が24時間365日整えています。
- 当院では最新のフラットパネル血管撮影X線装置を使用して最小の被爆量で検査を行っており、検査室内での検査時間は20分から60分です。検査後の安静時間は穿刺部位によって異なりますが、手首から行った場合はとくに安静にする必要はありません。検査によって発生する可能性のある合併症は非常に稀ですが、出血、発熱、心血管損傷、薬剤アレルギー・ショック、心筋梗塞、脳梗塞、腎障害などがあります。

